

# Journal of Environmental Dermatology and Cutaneous Allergology

第39回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会  
プログラム・抄録集

Vol. 3 No. 4  
October 2009



日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会  
The Japanese Society for Dermatoallergology and Contact Dermatitis

### F3-4 卵白 RAST 陽性成人における長期間の鶏卵摂取の影響

村田 将(むらた すすむ)<sup>1)</sup>, 橋本 道男<sup>2)</sup>, 栗野 貴子<sup>3)</sup>, 加藤 節司<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup>島根大学, <sup>2)</sup>島根大学医学部環境生理学,

<sup>3)</sup>島根大学生物資源科学部農業生産学科, <sup>4)</sup>仁寿会加藤病院

【目的】食物抗原特異的IgE抗体価が、実際の臨床症状と一致しないことはよく経験する。今回成人における卵抗原特異的IgEの陽性率を調査するとともに卵経口負荷試験を行いその臨床的意義を明らかにすることを目的とした。【方法】140人の成人ボランティアに対して、卵白、卵黄抗原特異的IgEを測定した。同意の得られた103名に対しては鶏卵の経口負荷試験(1日鶏卵2個摂取, 6ヶ月負荷)を行い、臨床症状を観察した。【結果】140名の対象者のうち9名に卵白抗原特異的IgEが検出された。卵黄特異的IgEは検出されなかった。これら陽性者を含む103人について6ヶ月の鶏卵経口負荷試験を行った結果、卵白特異的IgE陽性を示した9名のうち8名は無症状、1名に負荷試験期間中に蕁麻疹がみられた。蕁麻疹は鶏卵摂取中止、再開にて症状と関連はみられなかった。9名中7名は試験後に卵白特異的IgEは陰性になり、平均値も有意に低下した。卵白特異的IgE陰性であった94人のうち2人は6ヶ月の試験後に陽性になったが蕁麻疹などの臨床症状は出現しなかった。【考察】健康成人の約6%に卵白特異的IgEが検出されたが、実際の鶏卵摂取にて関連した症状はみられず、非特異的反応と考えた。